

岩間です。

あけましておめでとうございます。

現在2年生の英語表現Ⅱ（週2時間）を4クラスほど担当しています。この授業は文法作文のような授業です。各レッスンの最後に、英作文問題が3から4問出てきます。下のような問題です。

教科書 Lesson 19 T r y の問題

Try! Express the following in English.

- (1) A: ケンはまるでアメリカ人のように英語を話すね。 [→①]
 B: 彼のように英語が話せたらいいのになあ。 [→①a]
 (2) A: 仮に宇宙人が君の家を訪ねてきたとしたら、どうする? [→②a]
 B: 友だちになろうとするだろうね。 [→②]

Hint (2) 宇宙人 an alien ～と友だちになる make friends with ～

私の勤務する学校の生徒たちは、この問題をこのまま解ける生徒は皆無です。したがって、これまで、この部分については、並べ替えの単語を与えたヒントのプリントを配布してやらせていました。昨年と同様にして授業をやっていて、なんとかそれで授業ができていました。ところが今年は、この部分について答え合わせのため生徒に指名して板書をさせようとする、生徒たちは分からないと言います。昨年までもそのようなことはありましたが、だいたいは友達と相談してなんとか黒板に答を書いてくれました。（←昨年の教科書の英文はもっと簡単だったので）ところが今年は、誰も答えが分からず、「先生、分かりません。答を教えてください」と多くの生徒たちが言うようになってしまいました。しょうがないので私がヒントを言ってやったり答を教えてやったりして、黒板に書かせていました。いや、ヒントを言っても生徒は分からなかった、結局答を教えてやって生徒がそれを板書する授業となってしまいました。何をやっているのか分からない授業だと我ながら思っていました。それにその答えを教えてやった英文すら板書させると、スペルを写し間違えて間違っている生徒の板書も結構あります。

そんな時、山田先生の「甦えるとき」を読んでいたら、大学での並べ替えの少テストがありました。これを見た時、少なくともこの小テストのように、前置詞句など意味の塊の語群にすること、日本語には動詞には○がうってあって「センマルセン」を意識させて並べ替えさせるべきであること、そんなヒントのプリントでなければ生徒は問題を解けないことに気付きました。単純に単語が羅列してある語群のヒントだと、生徒はどのように考えていったいいのか並べ替え方が全く分からず途方に促していたからです。そして練習問題を多くこなせば、しだいに英語の独特の語順が理解できるようにするためには、やはり山田先生の大学の小テストのようなプリントを作成しなければと思いました。かつて「センマルセンで英語が好きになる本」のプロジェクトに参加しながら、それを全く活かしてこれなかった自分に気づき、少し呆れています。

今回、そんなことから、ヒントのプリントを作ってみました。しかし、山田先生のようなプリントの形では、簡単な英文の場合はそれでいいにしても、少し難しくなるとやはり生徒の途方に促した顔を見ることになりそうだと想像されたので、結局マルやセンやカギかっこや□のついた記号付けされた解答欄を用意してみました。このようなプリントは、長期休みのような時にまとめて作成しておかないと、授業が毎日あるような日はとても作り切れないので、冬休みに作成しようと思いついたわけです。

そのようにして、やっとならばレッスン19の4問だけですが、長時間を費やしてプリントを作ってみました。添付して送りますので、興味ある方はみていただいて、ご意見をいただければと思います。(添付ファイル)

ワードで作成していますが、動詞をマルで囲む時、下線部分と横の丸みを帯びた部分はいいのですが、上部のセンが引けなくて困っています。どなたかやり方を教えていただけませんか。実際プリントをつくる時は、手書きでいいのですが、メールでそのプリントを示したいときは、ワードでマルや□を入力できる必要がありますので。

仮定法の as if ですが、これは as が「~のように」とか「~と同じように」、if が「もし~なら」とか「仮に~なら」という意味なのかなと改めて思いました。通常は、as if で「まるで~のように」と覚えていただけです。そして as も if も接続詞ということでしょうか？接続詞なら、連続してだぶって接続詞がある英文もあるということなのでしょうか？私には謎です。だれか分かる方がみえましたら教えて下さい。

拝復 岩間先生

確かに岩間先生が言われるように、複文などのやや複雑な英作文では、ただ日本文に記号をつけるだけでなく、英語の語順を示す「語順訳欄」が必要になると思います。

拙著『甦えるとき』に載せている並べ換え英作文プリントは短い文が多かったこともあり、この「語順訳欄」はありませんが、最近 ML ブログ (12月22日) で紹介した英作文プリントでは、元の日本語がやや複雑でしたので、私も「語順訳欄」を作りました。(添付ファイル：一太郎)

このプリントでは、前半はこの「語順訳欄」にまず日本語を書き込むようにしてあります。英語はその穴埋めを日本語で書き入れさせてから書かせました。(後半を省いて学習者に自分で記号のついた日本文を並べ換えることを要求しました。)

一方で、岩間先生のプリントは、実際に鉛筆を持って書き入れてみて気づいたのですが、この語順訳欄に上で与えられている英語をそのまま書き入れるように作ってあります。

もしこの私のやり方でプリントをつくると、次の箇所を以下のようにしないとうまく日本語で穴埋めができません。

1. 「訪ねてきた」には「were to visit」を対応させて、ひとつのマルとして扱う。
2. 「しますか」は「するだろうか」と言い換えて語順訳欄には「だろうか」「する」と記入させる。

また、2つめの問題は次のようにしてみました。

私は [私が [彼のように] 英語を (話すことができた)] と (願う)。

I I like him English could speak φ wish

改訂点は、名詞相当語句に下線を施したこと、「と」を接続詞と見なして[]の外に出したこと、カギ括弧が重なるときは外側の方を大きくしたこと、従属節の中の主格を「が」にしたことです。

3つめの問題は以下のように少し日本語をアレンジしました。

私は [[彼または彼女と] 友だちに (なること| を) (試みるだろう) 。

I with him or her friends to make would try

上記の改訂点がないものでは、英語の準動詞にあたる日本語を左半マルにしました。

プリントについて気づいたところは以上です。

最後に as if について述べます。手元に資料がないので確定的な回答ではありませんが、次のように言葉を補ったらどうでしょうか。

Ken speaks English as if he were an American.

← Ken (speaks) English [as] [he (speaks) English [if] [he (were) an American]] .

つまり、「ケンが英語を話す、彼がもしアメリカ人であるならば英語を話すように、と考えるわけです。

山田

追伸

ワード・ソフトでは「上線」をひくことはできませんので一太郎・ソフトを購入されることをお勧めします。わたしも当初はワードを用いていて、マルや半マルを描くのに図形機能を利用していたのですが、かなり面倒でした。一太郎では丸括弧を文字入力してから「フォントの飾り」に入って「アッパーライン」「アンダーライン」をチェックすればOKです。

岩間です。

山田先生、ご丁寧な返信メールありがとうございます。

as if が、なぜ接続詞が重なってしまっているのか、先生の説明で「目から鱗」でした。

プリント作成の仕方について、細かく指摘いただきありがとうございました。

(以下は先生からの返信の一部のコピーです)

私は [[彼または彼女と] 友だちに (なること| を) (試みるだろう)] .

I with him or her friends to make would try

上記の改訂点のないものでは、英語の準動詞にあたる日本語を左半マにしました。

(なること| の部分のことです。これは英語では to make の部分です。この日本語から言うと、|to make) という記号付けとなってしまう、to |make) とはならなくなってしまいます。なぜこのように修正されたのかと疑問に思いました。不定詞の to は語順訳の時は、→で示しておけばいいのですが、このような英作文の並べ替え問題の日本語としてはどのように扱えばいいのか、この英作問題より後のレッスンでも戸惑いました。

(また日本語の記号付けは左半マルにしたとあります。『センマルセンで英語が好きに変わる本』でもそのようになり、このころにこのことについても話をした記憶があるのですが、なぜだったか忘れました。このセンマルセンの本を読んでみます。)

例えば、次の Lesson 20 の作文問題です。

(3) 彼は私に規則正しい生活をして、しっかりと食事をするように言った。

彼は 私に [規則正しい生活を|して) そして |しっかりと食事を|とる) ことを] (言った) .

He me |keep) regular hours and |eat) full meals to (told)

____ () ____ [____|____) ____ |____) ____].

上記の私の作成したプリントですと to の訳語は「こと」(名詞的用法)になっています。「ために」(副詞的用法・目的の場合)という訳語になったり、「そして」(副詞的用法・結果の場合)といった訳語になることもあるかもしれません。しかし、そのような訳語でいいのか自信がもてません。訳語のかわりに→のほうが、シンプルですっきりしていますよね。

などなどと次々に疑問が出てきました。またいずれ電話でもさせていただきます。

拝復 岩間先生

(CC: 寺島先生)

まず最初に as if について言いそえます。これは後から気づいたことですが、前回の英文に would を補ったほうがいいかもしれません。仮定法として完結しますので。

Ken speaks English as if he were an American.

← Ken (speaks) English [as] [he (would speak) English [if] [he (were) an American]] .

このようなふくらし方は、佐久間久『英文法のカラクリがわかる』で読んだように記憶しています。

原義に戻ると説明できるという例では、他にも次のような例がこの本に示されていました。

「命令文, or…」という文では、通例「or = さもないと」と訳しますが、原義の「あるいは」に戻るという例です。

つまり、Get up at once, or you will be late for the bus. という文では、「あなたが早く起きるか、あるいはあなたがバスに遅れるか、のどちらかだ」というふうに解するわけです。

話を本題の to 不定詞にもどしますと、やはりこれは岩間先生が言われるように「→」としたほうが良いように思います。

岩間先生の指摘を受けて、私自身も『センとマルとセンで英語…』を再読して分かったことですが、示された日本語を英作するには二段階の語順訳が必要だということです。

彼は 私に 規則正しい生活をしてそしてしっかりと食事をとることをように (言った)。

ステップ 1

彼は (言った) 私に 規則正しい生活をしてそしてしっかりと食事をとるように

ステップ 2

彼は (言った) 私に [→ 規則正しい生活をして そして しっかりと食事をとる]

He told me to keep a regular life and eat full meals

前掲『センとマルとセンで英語…』においては、左頁でステップ 1、右頁でステップ 2 の手順が示されています。

もっと正確に言えば、右頁はステップ 2+3 とやったほうが良いかもしれません。というのは、埋め込み文[]の中もすでに英語の語順となっているからです。

ステップ 3

彼は (言った) 私に [→ |して) 規則正しい生活 そして | とる) しっかりと食事]

ただ学力のあまり高くない学習者には、当面は、岩間先生が作られたプリントにあるようにステップ 2 まででとどめて keep a regular life や eat full meals のようにまとめてヒントを与えておくほうが良いとかもしれません。

このことは私自身も実践しています。先のメールに添付した作文プリントでは次のような英作文をさせています。

as is being done now / Memorize-all type English education

/ young people's creativity / are only wasting away

[いまのような] 丸暗記型の英語教育は、 若者の創造力を (すり減らすばかり)。

* 実際のプリントでは日本語の真上に英語のヒントが与えられています。

以上のことをふまえると、先のメールで示した私の案は以下のように修正されます。

前回の案

私は [[彼または彼女と] 友だちに (なること | を) (試みるだろう)]。

I with him or her friends to make would try

修正案

私は 彼または彼女と友だちになることを (試みるだろう)。

ステップ 1

私は (試みるだろう) 彼または彼女と友だちになることを

ステップ 2

私は (試みるだろう) [→ 彼または彼女と友だちになる]

I will try to make friends with him or her

まとめると、私が前回示した案では、ひとつはマクロレベル (文) とミクロレベル (埋め込み文) における 2 つの「センマルセン」の並べ替えを同時におこなっていること、もうひとつは前置詞 to の移動について学ぶことを妨げている、という 2 点でよくなかったと思います。

山田

岩間先生

(CC: 寺島先生)

先のメールで書いた以下の文章は正しくありませんので取り消します。

前掲『センとマルとセンで英語…』においては、左頁でステップ 1、右頁でステップ 2 の手順が示されています。

もっと正確に言えば、右頁はステップ 2+3 と言ったほうがいいかもしれません。というのは、埋め込み文[]の中もすでに英語の語順となっているからです。

正確に言うと、左頁においてすでに埋め込み文の中の語順は英語の語順になっています。

複文における従文と子文についても同様です。

ただ、前置詞句と複合動詞については、左頁は日本語のままで、右頁は英語の語順に変わっています。

そこだけを見て、埋め込み文も同様だと勘違いしました。

山田

<補足資料> 山田の12月22日の投稿 「英作文プリント」の紹介

最近の授業で使った英作文のプリントを紹介します。(添付ファイル)

元の日本語は、1題目～5題目が学生の書いたショート・エッセイで、6題目は寺島先生の発言(朝日新聞「争論」)の抜粋です。

この英作文プリントの説明に入る前に、学生がどのような問いに対してこのミニ作文(A4用紙の半分)を書いたのかを説明します。

今年度の「読解中心の授業」では、チョムスキーの『Understanding Power』の抜粋(pp.331-333)を読みました。

この本はチョムスキーがメディアのインタビューやいくつかの対話集会での質問に答えたものですが、私が選んだところは、ある男性から出された質問——賃金による動機付けがなく、どんな権威もない社会では人間を前進や成長に駆り立てるものは何か——に答えたものでした。この質問者は人間はお金をもらったり誰かから強制されないと働かない(あるいは行動しない)という考えを持っているのかもしれませんが。

チョムスキーは次のように答えました。(以下は筆者要約。和訳全文は添付ファイル参照。)

人間は、本来は、創造的な生き物で、未知のものを試し、また自分の能力を限界まで発揮したいと思っている。しかし、今の社会システムはそれを許さない。専横的な権威のシステムが彼らの「教義」を押しつける。例えば、テレビのコメディ番組やスポーツ観戦など、文化のさまざまな要素が、「適切」なライフスタイル、「適切」な価値観を暗黙の内に示して、私たちにその「教義」を叩き込んでいる。

そこで私は読解プリントの中に次のような問いをつくりました。

チョムスキーは「文化のさまざまな要素が、「適切」なライフスタイル、「適切」な価値観を暗に示す」と言っているが、君たちが自分自身の体験や身の回りの出来事にはそのような例はないだろうか、と。

そして3クラスで書かれた60余枚の中から選んだのが、5つの作文でした。学生たちが今の社会が彼らに押しつけている様々な「教義」に気づいて彼らなりに抵抗している様子がリアルに伝わってきます。タイトルを付けるとすると、次のようになるでしょうか。

1. 不要のものまで買いたくさせるテレホン・ショッピング
2. ニュース報道によって知らぬ間に植えつけられる反中感情
3. 同じ人間なのに「様」をつけて皇族を尊敬させるマスコミ
4. 同じようなデザインや質でもその価値を高く見せるブランド品
5. リストにないものを無意識の内にカゴに入れてしまう買い物

さて、ここからは英作文プリントのしくみについて少し説明します。

1題目～3題目までは、記号づけされた日本語の下に、すでに英語の語順で並べ換えられた記号が書かれています。いわゆる、「語順訳穴埋め欄」が前もって設けられています。

学習者はこの「語順訳穴埋め欄」に、セン、マル、シカク、カギ括弧などの記号をたよりにして日本語で穴埋めしていくのですが、日本語では省略されることがある主語や目的語を追加したり、叙述用法の形容詞には be 動詞にあたる「ある」を補う必要があります。(ただし、日本語の「連体形」の機能を果たす「関係詞」については前もって書き入れておきました。)

少し例を挙げますと、1 題目の②-2 や②-4 では多くの学生が手こずっていました。

	原文	語順訳
②-2	これは買わなきゃならない。 今なら安い。	私 (買わなきゃならない) これ それ (ある) 安い 今なら
②-4	〔(置いておく)〕 スペース	スペース [<u>そこに</u> 私 (置いておく) <u>それ</u>]

また、3 題目では文脈に合わせて、補うべき主語を「私」「彼ら」「私たち」と変えなくてはならないので、そこも少し難しいところでした。

4 題目の①②③でも、基本的には3 題目までと同じで「語順訳穴埋め欄」を埋めるだけなのですが、そこに至るまでのプロセスを示しました。

1 2 3 4 5

分解・言い換え → 記号づけ → 並べ換え → 語順訳穴埋め → 英語化

そして4 題目の④以降の問題では、第3 段階の「並べ換え」も自分でやるようにしました。

この「並べ換え」は多くの学生にとってはかなり難しかったようで、5 題目に取り組んだときには、2 つのクラスでは学生の手がなかなか動きませんでした。そこで黒板に語順訳の記号を書いてヒントとしました。

6 題目は、寺島先生の発言(朝日新聞「争論」)を題材に取りました。ここは明日からの授業で行うところですが、⑥-3 の「全体を見渡した仕事ができる」というところはどんなふうに英語にしたらいいのか、ずいぶん考えました。

最終的には、**You can do the job that enables you to see the whole.** としましたが、**You can do a good job by seeing the whole.** と言い換える方法もあるかなと思いました。みなさんならどんなふうに英語にされるでしょうか。

この実践は進行中で、まだ学生の授業レポートを見るまでは結論的なことは言えませんが、学生の取り組みの様子から推測すると、もしかすると彼らは「自分も英語が書けるかもしれない」という気持ちを持ち始めているかもしれません。これは彼らが「英語を書いている」という疑似体験をしているからです。それはちょうどリズムよみをしている(あるいは表現よみをしている)と英語を話しているような気分になるのと似ています。

さらに言うならば、これまでは一文の英作文でさえも自信を持って書いたことがないであろう学生たちが、量的・質的に言えば英検準 1 級程度の英作文に取り組んでいるのです。もちろん、それは記号と語順訳欄と英語を与えられて書いているのですが、少なくとも英文の構造(語順)を理解し始めていることは間違いありません。表現を暗記してはき出す英作文からはこのような理解は生まれようがないでしょう。

最後につけ加えるならば、これは寺島先生から言われて気づいたことなのですが、このプリント作りは英語教師の自己研修になっているということです。英語教師にとって授業の準備をしながら自分の英語学習ができるというのはなかなか素敵なことだと思います。

追記

上記の原稿を書いてから、英検のHPで調べてみたところ、現在の筆記問題には日本語を英作する設問はなく、準1級は提示されたeメール(英文)に100語で返事を書く、1級はひとつのテーマと指定語句を与えられて200語で自分の意見を書く、というような形式になっていました。しかしいずれにしても英文量は準1級程度に相当します。

英作文についての山田先生とのメール交換の後に考えたこと(岩間)

始業が7日からなので、とりあえず添付した形のプリントを配布し生徒にやらせてみます。学年担当者が私を含め4名います。全員で使ってみてほしいと思っていますが、使ってもらえるかどうかは分かりません。

山田先生、アドバイスありがとうございました。

(1) 衝撃を受けた『甦えるとき』の中の英作文記号付け

『甦えるとき』の中で、英作文の記号付けで強く印象に残ったことがありました。なんだ、そんなことと思われることかもしれませんが、私にとっては衝撃でした。それは、単語一語一語をバラバラにして、記号付けの手順でそれを並べ替えさせるのではなく、センスグループの大きな塊で語群を与え並べ替えさせるという方法です。そしてこのようにするのは、センマルセンの語順を浮き彫りにさせて、語順の幹の部分の学生に理解させるということでした。センスグループの大きな塊でヒントを与えるというのは、並べ替え問題を簡単にしようとするとき、誰にでも思い浮かぶことなのですが、その目的がセンマルセンを浮き彫りにするという発想が私の中には、ありませんでした。根本的なことであり、あまりにも当たり前すぎて見逃してしまうことであるからです。単語を一語一語バラバラにしたものを並べ替えさせるのは、「木を見て森を見ず」のような、英語教師が陥りやすい例外とか細部にこだわった並べ替え問題となり、その並べ替えをさせて何を生徒に身に付けさせようとしているのか、不明確なこととなります。大げさですが、なにか語順並べ替えの根本理念を知らされたと感じました。英文和訳の時はそれほど顕在化しませんが、和文英訳の時は、このセンマルセンが分かっていないから並べ替えができないことが顕在化します。そんなことが、私の意識の中で明確になりました。したがって、英作文指導の時は、このセンマルセンの語順を、数多くの例文を使っていかに定着させられるかが、まず第1の最重要課題なのでしょう。そしてしだいに様々な並べ替えへと進むのが道順となるのでしょう。日本語では主語が省略されていることが多いから、なおさらこのセンマルセンは重要となります。

(2) 英作文の記号付けへの違和感

英作文の記号付けへの根本的な疑問がありますので、以下に書きます。英作文の記号付けについて、最初の日本語をステップを踏みながら、どんどん英語の語順に近づけて書き変えていくという方法を山田先生も述べられていましたし、『センマルセンで英語が好きになる本』でも、その点について詳しく述べられています。私の読みや説

明の聞き方が不十分なのかもしれませんが、このやり方について、私には違和感があります。このやり方を英文和訳の記号付けのやり方に置き換えると、次のようになるのではと思います。

(A)

He (went) [to school].

上記英文を日本語の語順に近づけながら、並べ替える作業をすると

→He [to school] (went).

→He [school to] (went).

最後に日本語にすると

→彼は [学校 へ] (行った)

と、なります。

(B)

しかし、英文和訳の記号付けでの手順は、簡単に言うと以下のようでした。

He (went) [to school].

→彼 (行った) [～へ 学校]

と、上記のようにまず語順訳をする

→彼は [学校 へ] (行った)

と、普通の日本語にする。文が長い時は、フレーズ訳をさせ、そのあと必要に応じて足し算訳をさせる。

(C)

この英文和訳の手順にならって、和文英訳をすると

彼は [学校 へ] (行った)

He school to went 英語の語順訳。

→He (went) [to school] 上記の語順訳から、英語の語順に転換していく。

となり、日本語を並べ替える場面がありません。

確かに日本語並べ替えさせた方が、英語を苦手とする生徒にはより簡単にできるかもしれないということはあります。しかし、日本語ではなくマルや半マルや四角やカギカッコを頼りに直接英語を並び替えるというやり方は、だめなのでしょうか？日本語を何度も書き変えながら、英語の語順に近づけていくというのは何か煩雑な感じを受けます。それにそのような操作ができるのは、最終的な英文が頭の中にあるからできるのではないかとさえ思ってしまうます。

(3) その後、山田先生と電話で話したこと

MLの原稿としては、尻切れトンボですが、(2)までで終わるつもりでいました。ところが、この(2)までの原稿を山田先生にメールした後に、電話で話をする機会があり、この原稿についてのコメントをもらいましたので、その内容を付け加えます。

「日本語ではなくマルや半マルや四角やカギカッコを頼りに直接英語を並び替えるというやり方は、だめなのでしょうか？」との私の間に対して、山田先生はそれで生徒ができるのなら、煩雑さを避けるという意味で、それでいいのではないのかとのことでした。私は頭が硬いので、記号づけでの英作文のやり方は必ず日本語を並べ替えないといけないという先入観がありました。いつもそのやり方をしなければならぬとなると、(2)で述べたような記号づけへの違和感が出てきて、「ああ、このやり方は自分にはできない」と無用の壁を作っていることに気づきました。やはり何事も臨機応変に対応することが大切だ

と思いました。

蛇足になりますが、『甦るとき』の中に出てきた英作文並べ替えの小テストは、テストということもあるけれども、そのような日本語を並べ替える場面がなかったことから、これだったら自分でもできるかもしれないと感じました。そして、この小テストは合格するまで何回受けてもいいというやり方をしていると聞いた時、ああそのようなやり方をすれば、学生たちは次第に英文の語順を理解するようになるだろうということが、理解できました。私は「英語表現」(旧課程の Writing にあたる科目)の授業実践で、迷走をしていた(=困っていた)ので、『甦るとき』の中でその大学での小テストを見た時、なにか救世主に出会った感じがしたものですから、そのような記号づけプリントを作成しようと思いついたわけです。

(2)の「英作文の記号づけへの違和感」については、山田先生は次のように言われました。「上記(B)の英文和訳の手順の中で、彼(行った) [～へ 学校] の語順訳の部分を彼は [学校 へ] (行った) と普通の日本語にするのは、日本人には容易だけれども、外国人には困難であることが想像される。その裏返しの和文英訳でも同じことが言える。上記(C)の He school to went の英語の語順訳を He (went) [to school] と普通の英語にするのは、英語を話す英米人には容易だけれども、日本人には容易ではないことが想像される。したがって、(C)の部分の英語の語順訳から普通の英語に並べ替える作業は、日本人には日本語でしたほうがより容易ではないのか。」ということだった。私はなるほどそう言われると確かにその通りだなあと思い、あっさりと納得してしまった。

以上のことから、今回作成した英作のヒントのプリントについては、○□[]___に英語で穴埋めしなさいと指示してあるのだが、分からない人はまず日本語で穴埋めをして、その下の余白に英語を書きなさいと指示するといいたいだろうというアイデアが浮かんだ。

今後とも、記号付けを使った英作文指導の在り方について、考えていこうと思っていますので、ご助言よろしくお願いします。

英作文の記号付けプリントのその後(岩間)

「研究仲間」のMLに前回英作文の記号付けプリントを添付しました。このプリントについて、山田先生より電話をいただき、コメントをもらいました。その内容と、私が思ったことを以下に書きます。プリントの赤字部分が、山田先生が指摘された箇所です。なお、記号付けのマルの上のセンは手書きで書いています。また、前回のプリントの前文は載せず、訂正をしたのほうがいいのではないかと話し合った部分のみ以下に載せました。

Lesson 19 Try ヒント

セン、マル、四角、カギカッコに単語を入れて、英文を完成せよ。

(2)

A: 仮に宇宙人が君の家を訪ねてきたとしたら、どうする？

[宇宙人が 君の家を 仮に (訪ねてきた) としたら]、君は 何を しますか？

an alien your home, [if] (were | to | visit) you what (would | ~ | do)?

[] _____ (_____ | _____ | _____) _____],
_____ (_____ | _____ | _____)?

[宇宙人が 君の家を (訪ねてきた)]もし~ならば、君は 何を する だろう
か？

an alien your home, (were to visit) [if] you what |do) (would |)?

[] _____ (_____) _____],
_____ (_____ | _____ | _____)?

・[仮に]~[としたら] は四角が二つになっているので、紛らわしい。[もし~ならば]とひとつにして、[]の後ろの外につけたほうがいい。

・もし()の中に日本語を入れることも考えているのなら、were to visit の部分は、()の中の仕切りの|をとって、ひとつの塊にしておいたほうがよい。

・「しますか」の部分は「する だろうか」にすれば、would と do の意味がより明確となる。

@この3点については、私もその通りだと思いました。

B: 友だちになろうとするだろうね。

私は [[彼または彼女と] 友達に (なる | こと) (試みるだろう)。

I [with him or her] to | make) friends (would | try)
_____ (_____) [_____ | _____) [_____]].

私は [[彼または彼女と] 友達に (なる | こと) (試みるだろう)。

I [with him or her] | make) friends to (would try)
_____ (_____) [_____ | _____) [_____]].

・ここは to 不定詞をどう扱うかがプリントの中で統一されていないことが問題となった。下記の Lesson 20 の(3)の不定詞の前の to は単独で不定詞とは別にしてあって並べ替えをさせようとしている。したがって、統一させるなら to make friends も to と make friends は分けたほうがいいのではないかと、山田先生と話し合った。また、to は文の中でつなぎ言葉なので、そのつなぎ言葉の位置を問うには、そのほうがいいのではないかと。

@その後、私は考え直して次のように思った。学力の低い生徒には、to は不定詞とくっけておいて、並べ替えをさせてほうがいいのではないのか。下記の Lesson 20 の(3)のプリントで to が単独で並べ替えの語群の一つになったのは、不定詞が keep と eat のふたつがあったからだ。keep だけに to がついていると、eat にもかかっていることが生徒は自覚しないのではという危惧から to を単独にして語群のひとつにしてしまっていた。したがって、to 不定詞の塊のまま、次のような並べ替え問題にするのも一案かと思った。

彼は 私に [規則正しい生活を(する|ように) そして しっかりとした食事を(とる|<ように>)] (言った)。

(省略)

He me to|keep) regular hours and {to}|eat) full meals (told)

(省略)

_____ () _____ [_____ | _____) _____ | _____] .

↑

{to} が省略されている

Lesson 20 Try ヒント

(1) マサトはかぜをひいたことがないと私に言った。

マサトは [彼は かぜを (ひいた) 決してない]と 私に (言った)。

Masato he a cold (had | caught) never that me (told)
_____ () _____ [_____ (_____ | _____) _____] .

マサトは [彼は かぜを (ひいた) 一度もない]と 私に (言った)。

Masato he a cold (had | caught) never that me (told)
_____ (_____) _____ [_____ (_____ | _____) _____] .

・ここは言葉だけの問題の訂正。

(2) 私は彼に健康の秘けつは何か尋ねた。

私は 彼に [健康の秘けつは 何で (ある) のか] (尋ねた)。

I him the secret of his health [] (was) (asked)
 ___ () ___ [] _____ ()].

何で の英語の部分の **what** が抜けているので、**what** と付け加えます。

(3) 彼は私に規則正しい生活をして、しっかりと食事をするように言った。

彼は 私に [規則正しい生活をして| そして しっかりと食事をする| ように] (言った)。

He me | keep) regular hours and | eat) full meals to (told)
 ___ () ___ [to | ___) _____ | ___) _____].

彼は 私に [規則正しい生活をして| そして しっかりとした 食事をする| ように] (言った)。

He me | keep) regular hours and | eat) full meals to (told)
 ___ () _____ [to | _____)
 | ___) _____].

・ **full** は形容詞なので「しっかりと」という副詞でなく「しっかりとした」という形容詞にあたる日本語にしたほうがよい。

@その通りで納得した。

Lesson 21 Try ヒント

___ () _____ [_____].

私は [すべての科目が] 得意な (である) ない。

I [at all subjects] good (am) not
 ___ () _____ [_____].

・ここは、単純な[]の付け忘れ。

(3) 英語の試験ではぜひいい点を取りたいです。

私は [[英語の試験では] いい点を |取る)ことを] (ぜひ望んでいます)。

I [on the English exam] a good score to |get (do want)
 ___ (_____) [_____ | _____)
 [_____]].

私は [[英語の試験では] いい点を |取る)ことを] (強く望んでいます)。

I [on the English exam] a good score to |get (do want)
 ___ (_____) [_____ | _____)
 [_____]].

・ここも言葉の問題で、大きな問題ではない。